

# 臨床薬理学

責任者・コーディネーター		情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科（分野）		情報伝達医学分野、薬学部医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野		
担当教員		平 英一 教授、小澤 正吾 教授、工藤 賢三 教授、近藤 ゆき子 講師、古濱 和久 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数	講義	8コマ 12.0時間
期間	前期		演習	0コマ 0.0時間
			実習	0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

薬物治療は現代医療の中で中心的な役割を占めている。治療に有効な薬物を開発し、患者により安全で有効な治療薬を選択するための学問が臨床薬理学である。臨床薬理学は、臨床薬物動態の検討、薬物の開発と臨床治験、そして個人に適した有効治療の確立などがあり、臨床薬物治療学に科学的さらには倫理的側面からもアプローチする学問である。

## ・教育成果（アウトカム）

医師として薬物治療、薬物開発、臨床治験に参加する際の基本的知識を説明できる。また、薬物動態の個人差を理解し、各個人向け治療を実践できる知識を説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7 ）

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	薬物治療の際の科学的根拠と、倫理、法律を説明できる。
2	薬物の処方について説明できる。
3	薬物の毒性や副作用について説明できる。
4	薬物の開発について説明できる。
5	薬物に対する反応の個人差について説明できる。
6	薬物間の相互作用について説明できる。
7	薬害について説明できる。
8	薬物動態について説明できる

## ・講義場所

講義：東1-0講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	6/5(金)	1	情報伝達医学分野	平 英一 教授	処方と関係法規	1,2
講義	6/12(金)	1	薬学部医療薬科学講座薬物代謝動態学分野	小澤 正吾 教授	薬理遺伝学・遺伝子多型と薬物代謝	3
講義	6/15(月)	1	薬学部医療薬科学講座薬物代謝動態学分野	小澤 正吾 教授	有害作用と副作用	5
講義	6/15(月)	2	薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	薬物動態の臨床薬理	8
講義	6/16(火)	1	薬学部臨床薬学講座臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	臨床治験	4
講義	6/16(火)	2	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	薬物相互作用	6
講義	6/18(木)	1	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	医薬品毒性学と薬害	3,7
講義	6/18(木)	2	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	発達・老年薬理	5

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	NEW薬理学 改訂7版	田中千賀子、加藤隆一 編	南江堂	2017
参考書	シンプル薬理学 改訂5版	野村隆英、石川直久 編	南江堂	2014
参考書	Goodman & Gilman's the pharmacological basis of therapeutics 13th ed.	Laurence L. Brunton	McGraw-Hill	2017
参考書	カッツング薬理学 原書10版	Bertram G.Katzung 著、荒木勉ほか訳	丸善出版	2009
参考書	カラー図解 これならわかる薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein著、佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012
参考書	集中講義薬理学：カラーイラストで学ぶ 改訂第2版	渡邊康裕 編	メジカルビュー社	2015

・成績評価方法

【総括評価】筆記試験で60点以上の場合に合格。【形成的評価】演習を行い、評価を行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、図書館

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			